



今年度は附属小の
「創立150周年」です。
ワクワクでいっぱい年にしていきます！

令和6年度 附属小学校だより

スマイルふぞく⁴



第5号 令和6年9月30日（月） 校長 古野 祐一

スマイルチーム活動の進捗紹介！

右の写真を御覧ください。スマイルチーム活動の一つである図書館チームのメンバーが考えた、新しい図書館イメージを模型にしたものです。夏休みの自由研究で、メンバーの一人が作成してくれました。附属小学校150周年の記念として、図書館改造計画を考えていたところ、この4名のメンバーが参画してくれました。以前集めた全校アンケートの結果をもとにアイデアを出しつつ、行動に移しています。6月頃から改造イメージをデッサンしたり、実際に本棚や机等の寸法を測ったりして、どう模様替えを行っていくかシュミレーションしていました。9月12日（木）には、実際に図書館デザインを依頼する工作所の方に来ていただき、子供たちの願いやプランを聞いてもらいました。実際に図書館を見ながらの話し合いは熱を帯び、工作所の方も「面白いプランで興味が湧いてきました」と、その場でラフスケッチを描いて、子供たちと意見交換をしてくださいました。図面にしてくださった概要図が届き、改造計画も本格化しています。1月完成を目指し取り組んでいきますので楽しみにしてください。

他にも学校紹介ビデオを作成してみたいという二人のチームも立ち上がりました。映像作成に興味があるメンバーで、今後の取組に期待しているところです。「自分たちの学校は自分たちで創る」という姿が、スマイル附属をますます活気づけています。

運動場に「ほうき草（コキア）」登場！

6月初旬に、ほうき草の苗を植えてみたい人を募ったところ、30人ほどの子供たちが興味をもって参加してくれました。5年生の千々岩君が、参加募集のチラシを作ってくれたおかげです。もう一人、当初から熱心に関わり続けている3年生の姜君の二人が、リーダーとして、複数の子供たちと一緒に水やりや雑草取りを手伝ってくれます。苗を持ち帰って家で育てている子もいて、発育状況を教えてくれます。10月上旬には、夏の緑色から少しずつ紅葉し始め、緑と赤のグラデーションに移ろいゆく色合いも魅力的です。その後、中旬ごろには、鮮やかに紅葉して運動場の一角を真っ赤に染め上げてくれる景色を、今から期待しているところです。学校にお越しの際は、運動場に足を運んでいただき、奥の方で育てている丸々とした可愛らしい姿を御覧ください。

ほうき草の紅葉が終わった後、枯れ始めたら刈り取って、種を回収した後、ほうきを作る予定です。来年の朝掃除で使えるかもしれません。回収した種は、家庭で植えたい人に配付しようと考えていますので、希望させる場合はお子さんに伝えてください。北斗育ちのコキアを家庭でも楽しんでもらえたらと考えています。



図書館改造イメージ
の手作り模型。



工作所の方と打ち合わせをするメンバー。



ほうき草を植える
子供たち。



丸々と可愛らしく育
っているほうき草。

※裏面に続きます！

子どものちから

9月、4人の北斗の子が教育実習生として帰ってきました。教職を志すようになったきっかけを聞いてみました。

「小学校1年生からです。当時の担任の先生に憧れていました。卒業の時には、当時の主幹の先生からアルバムに『待っとるけん!』と書いていただき、背中を押してもらいました。」

育てることへの憧れの原点が北斗の恩師であることを嬉しく思います。

「4年生の時の実習生がきっかけです。子どもの興味を引き立てる教材をたくさん考えました。きっと、私たちのために時間を掛けてくれたと考えたとき、私も人のために一生懸命になれる先生になりたいと思いました。」

大切にしている当時の実習生からのプレゼントを見せてくれながら、話してくれました。

北斗の憧れ



教職を志すきっかけはそれぞれですが、子どもにまみれる教師の喜び、子どもの伸びと共に成長する教師のやりがいに憧れを抱いています。

憧れの感情は、人を動かす大きな力になります。子どもの頃に見てきた世界や体験、そして出会った大人の存在が、その後の人生の大きな影響になり、夢を叶える力になります。

未来の教師を育成することは、本校の使命です。教員不足が言われる昨今、長崎大学教育学部の教職志望率は全国的に非常に高いです。

今年も100名の北斗の実習生が憧れを胸に、夢に向かって歩みを進めました。

教頭 橋田 晶拓

教えから学びへ²

Betterを目指し

本日、1・2年A組担任の本村教諭が、4年生に向けて算数科授業を行っていました。今週、佐世保市の小学校で授業を公開することになっており、その授業を模擬したものとなります。授業に「Best(最もよい)」はありませんから、「Better(よりよい)」を目指し、模擬授業を通して改善を重ねていくのです。しかし、子どもにとっては1度切りの授業。模擬とは言え、決して軽い気持ちで行うことなく、常にその時点でのBetterを追究し実践します。

また、このような授業は、授業改善を図るという面で、教師にとって意味があることですが、子どもにとっても学び多き時間になるものと考えます。

- 検討を重ねた専門性の高い授業を受けること
- 担任以外の指導により、学び方が強化されたり、新たな視点を得たりできること
- 様々な教員との関わりが増えること

昨今話題になっている「教科担任制」という新たな学習形態のもつメリットに近いところが数多くあるのではないのでしょうか。

10月から「提案授業」月間。各自が研究する教科等について、新たな実践について提案する授業を、職員間で公開し合います。新たな学びの視点を、自分の教科や学級に取り入れる機会とすることで、附属の「自律した学び」を促進させていきます。

主幹教諭 松尾 勇哉

身近な幸せ

わざわざ かける手間

先日まで教育実習が行われており、本年度は100名の実習生が、子どもたちのために汗を流してくれました。

この写真は、一足先に実習を終えた養護実習の先生へ、お別れを伝えにきていた様子です。脇には水筒やコーンを



抱えています。給食が終わり、昼休みに運動場へ向かう途中に、わざわざ保健室を訪れていました。結局この日は、何人もの子どもたちが、保健室へお別れと感謝の言葉を届けに来ていました。

「人を喜ばす基本は自分の手間を使うこと。安易な方法ほど伝わらない。」という考えもあります。本校でも、自分の手間を使って、人を大事にすることをずっと大切にしています。「わざわざ」と書くと言語弊があるかもしれませんが、「わざわざ」お礼を伝えにきた子どもたち。保健室を訪ねるよう促した先生の働きかけもあったかもしれません。それでも、手間をかけるべきところは逃さないようにと、全校が動いていた姿に心動かされました。

教務主任 野口 拓也